

# 先人たちの声

北九州モデル導入の**実際**を聞きました

社会福祉法人もやい聖友会 特別養護老人ホーム  
**银杏庵 穴生倶楽部** 入所120名/短期入所10名  
北九州市八幡西区鉄王2-2-36  
平成26年12月に開設。地域を巻き込み、人と人のつながりを構築する様々な取組を展開しており、メディアにも多数取り上げられている。



- ### 北九州モデル導入の主な取組内容
- 北九州市介護ロボット等導入支援・普及促進センター（以下、センター）実施の業務量調査とその報告を受け、**記録業務と職員間情報共有の効率化**を課題として掲げ、センターの助言を交えながら具体的な取組内容を計画。
  - 同じ記録ソフトを既に活用している他施設、別の記録ソフトメーカー、複数の情報共有ツールをセンターから紹介してもらい、スムーズに情報収集と整理を進めながら**記録ソフトと情報共有ツールの見直し**を実施。
  - 既存の記録ソフトの**知らなかった活用方法が分かり**、また**施設に合った情報共有ツールの選定と一本化**も図られ、**記録方法の統一と情報共有の拡大**ができた。

### 北九州モデル導入の流れ (センターによる伴走支援)

	R4								R5		
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
<b>準備</b>	キックオフミーティングとチーム作り										
<b>調査</b>	センターによる業務量調査と結果報告会										
<b>検討</b>	課題抽出と解決策立案に向けた意見交換										
<b>実践</b>	センターの紹介による他施設やメーカーとの意見交換/振り返り										

## 1 北九州モデルに取り組もうと思ったきっかけは？

求人を出してもなかなか応募がなかったり、財源の問題もあり、現場の人材が不足し、一生懸命働いているスタッフたちが疲弊していったり頑張っても頑張っても・・・といったような状況でした。そんな折、北九州モデルの話があり、**介護ロボットやテクノロジーに頼ることで解決できる部分があるのではないか**と思い取組に参加することにしました。

## 5 取組にあたり壁になったことは？

取組が滞ったり、現場の協力が得られないといったことはなく、特に壁になったことはありませんでした。それは、**目的や目指すゴールを全職員へ明確に示し、理解を得た上で取組を進めた**ためだと思います。そして全職員を巻き込んで、今回の取組を実施していることを知らない職員はいないという状態で臨んだことでスムーズに進んだのだと思います。

## 2 職員との合意形成はどのように行いましたか？

トップから一方的にやりなさいと指示するのではなく、まずは管理者会議の中でリーダーたちに「北九州モデルとは何か」について説明し、**北九州モデルに取り組む意義や施設が目指すゴールについて話し合い、現場の意向を確認**しました。その結果、「ぜひやってみよう」との声が上がり、取組への合意形成を図ることができました。

## 6 今回の取組で役に立ったことは？

どのようなこと（例えば、記録ソフトの機能等）に対しても「これはもう仕方のないこと」と決めつけるのではなく、**改善する可能性を探る意識と行動が重要であること**に気づかされました。また、業務量調査や他施設・メーカーと情報交換する場をセンターが仲介してくれたことで、**新たな視点を得られ、これまでの業務を見直す**ことができました。

## 3 多職種をどう巻き込みましたか？

**多職種が集まる管理者会議やリーダー会議の場を使って**、北九州モデルの取組についての情報共有や意見交換も行っていました。それによって看護師、介護福祉士、事務職員、理学療法士、管理栄養士、相談員、介護支援専門員といった多職種によるチームが自然と形成でき、うまく皆を巻き込みながら進めていくことができました。

## 7 新たな取組など、今後の方針は？

人材活用に加え、多世代交流やつながりづくりを目的に「**赤ちゃん職員の採用**」「**ご家族によるボランティア活動**」を進めています。また、LOVOTといった**コミュニケーションロボットを導入**（福岡県介護ロボット導入支援事業に申請）して、より一層癒しの場や機会の拡大を図る予定です。

## 4 不平不満が出たとき、どのように対応しましたか？

元来、様々なことに積極的に取り組む組織風土があったことと、新しいことに取り組む際には必ず「**何のためにするのか**」「**どういったことをするのか**」「**結果がどうであったか**」を随時示しながら現場の理解を得るようにしました。そのため、取組の中で職員からの不平不満は一つもありませんでした。

## 8 これから取り組む施設へのアドバイスを！

役職者だけで進めていっても上手くいかないことが多いと思います。職員全員が同じ方向を向くように、**現場と一緒に考え、情報を共有し、前向きに取り組む姿勢**を大切にしてほしいと思います。そのためにも、「**なぜそれをするのか**」「**どんなことをするのか**」「**どのように進んでいるのか**」を随時現場に伝え、チャレンジしていただければと思います。